
SIREN サイレン

アダムの肋骨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SIREN サイレン

【Nコード】

N2316D

【作者名】

アダムの肋骨

【あらすじ】

もしあの時サイレンが鳴ったとしたら、今の俺はどんなに幸せなんだろう…

プロローグ ネガティブシンキング

異世界は美しく残酷で、そして鮮やかに人々を飲み込んでゆく

これは、それに飲み込まれた人々のお話

『脱走なんて出来ないよ』

くじらに飲み込まれたマリオネットが言った。

今思えば、

その日は何だか気分が悪かった。

此処は何処なんだろう。

見たことがある部屋だけど、

毎日使っていた部屋だけど、

はたして本当にこの部屋が、

俺がいた場所なのかは分からない。

何だが、気持ち悪い。

助けてよ。

今すぐ助けてよ。

このままじゃ狂いそうだ。

此処は俺のいた場所じゃない。

そんな気がして、俺はその部屋を出た。

別に自分のいた場所を探す気なんてなかったけど

自分がいなかった場所にいるなんて考えてみると、気持ちが悪くなるだろ

だからただそこから逃げてみただけ…

特にこれという理由はないんだ。

ただ逃げてるだけ…

逃げてるけど、それと同時に救出してほしいって部分もあって、

逃走と救出願望を同時進行で行ってるわけ…

だから君に助けを求めてみたんだけど…

君は内心鼻で笑っただろ？

もうそんな経験はうんざり…

俺は一体何処まで落ちたら気が済むんだろう…

まったく逆のシンデレラストory

君がもしこのストーリーのシンデレラだとしたら、

君はヒロインでいることに耐えられるかなあ…

No.1 夢から覚める時

白一色の建物があつて、

ところどころに天使やバラなどの装飾が施してある。

広いにわの中央に噴水があつて、

その噴水の装飾も白一色。

その建物への道のりを足軽に走っている少年がいて、

その少年の髪も白一色。

つていえば響きがいいんだろうけど、

実際は違って…

スキップするように走るその少年の髪はブロンドで、

その色で飾られた睫毛の下の瞳は濃い青一色。

その少年が長い長い庭の道を通り抜けて、

大きなドアノブに小さな手をかける時、

それは大きな漆黒の扉が鈍い音をたてて主人を迎え入れる。

それが少年の日課。

室内に入れば、

まずは大きな時計が迎え入れてくれて、

そしてジンジャービスケットの香りがして、

それから白い清潔感のあるエプロンをした老婆がキッチンから少年を見て顔をますますしわくちゃんにして挨拶をする。

少年はそれになこやかに答えて、

老婆のいる場所へと駆けて行って、

幸せそうにジンジャービスケットをほおばる。

少年はその瞬間がとても好きで…

それはもう幸せになれるのでした。

その少年はずいぶん裕福な家に住んでいて、

世の中の穢れも知らずにこれからも生きていくのでしょうか。

でももし、

少年が人生最大のある事件を起こしたなら、

世の中の穢れも汚れも全部その身に背負って生きてくれるのかもし

れない。

誰かが不幸になっただって、

夜明けはいつもどおりやってくる。

何でなんだろうね。

何コレ。

眩しいし…

寒いし…

うるさいし…

……

カーテン越しに太陽の光が顔に当たって、

自分がベッドから落ちていることに気づいて、

下の階からわめき声が聞こえて、

朝だっことに気がついた。

寒さで顔が冷たい。

いや、ベッドから落ちたせいで全身が冷たかった。

むかついたので、勢いよくベッドの中にくるまった。

古いスプリングが軋む。

人がいなかったせいでベッドの中も冷たかった。

「もうありえないわ〜これ…」

独り言を言ってますますベッドにくるまる。

下の階のわめき声が止むのを待ってから、

俺はベッドから勢いよく飛び出して、下の階へとつながる階段を降りていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2316d/>

SIREN サイレン

2010年10月12日07時18分発行